

令和 7 年 3 月 27 日
世田谷区立桜木中学校
校 長 石井 達也

令和 6 年度学校自己評価報告書

1 地域との連携・協働による教育

(1) 広報活動・情報提供

<考察等>

○学校関係者評価アンケートの Web 回答が 3 年目になり、発信・回収・集計が効率的になったことは継続している。昨年に引き続き緊急連絡メール「すぐーる」を活用しリマインドを数回にわたり発信したが、昨年度の回答率には達しなかった。

<改善策>

□質問数の多さと答えにくい質問内容があった。来年度は質問内容の学校裁量枠が増加するため、答えやすい質問数と質問内容を検討していく。

(2) 保護者・地域連携

<考察等>

○教科「日本語」において、1 年生「風呂敷包み」「鯉節」、2 年生「落語」「浴衣着付け」、3 年生「日本舞踊」「茶道」を実施した。各学年で 2 つの体験活動の実施ができたとともに、学校支援コーディネーターの方による支援のもとで開催できた。

○PTA 会長をはじめとする役員の方々、委員・係の方々のご協力により、学校行事を円滑に実施することができた。道徳授業地区公開講座では、学年教員と保護者の意見交流を活発に行うことができた。

○青少年上町地区委員会・青少年経堂地区委員会・まちづくりセンターの協力で中学生が地域で活躍する場面を提供していただき、多くの生徒が参加することができた。地域の一員としての自覚、地域の方々との交流ができた。

<改善策>

□教科「日本語」の担当教員と学校支援コーディネーターの業務分担を明確にして、講師の方々との連絡・調整を円滑にしていきたい。

□PTA 会長を中心に役員の方々が PTA 業務のスリム化・効率化に取り組む中、学校との役割分担を明確に進めていきたい。

□地域行事を「地域が子どもを育てる場面」として活用し、生徒が気軽に参加できるように青少年委員会・まちづくりセンターと連携していきたい。

2 「キャリア・未来デザイン教育」で実現する質の高い教育の推進

(1) 学習指導

<考察等>

○学習指導についての生徒アンケート5項目では、肯定的意見が90%以上の項目が4つであった。生徒の学びやすさを意識した授業を展開している成果と考える。授業中に自分の考えを伝え合う場面が多くあり、主体的に学ぼうとする生徒の育成の成果と考える。

○テスト・提出物の評価についての項目の肯定的意見が84%となった。

<改善策>

□教師が単元ごとの評価基準を生徒に明示し、生徒が目標に向かって学習に取り組めるように校内研修会を実施する。

□定期考査偏重の評価からの脱却を図り、定期考査の回数を各学期1回とする。

(2) 生活指導

<考察等>

○集団生活において、時間を守ることを中心とした規律で行動する生徒の姿があたりまえの姿となっている。生徒への傾聴と対話を重視した指導を継続してきた成果である。

○一通りの自治活動ができる集団を、生徒の意見でより実際生活に合った活動ができる集団に変容させていくことが求められる。

<改善策>

□生活のきまりを自分たちで再検討し、実行・検証・修正していく活動を実施し、自治活動の向上を図る。。

□あいさつ・場にふさわしい行動が自分発信でできる生徒会活動を計画していく。

(3) 特別活動・行事

<考察等>

○学校行事に対する生徒の満足度は高く、達成感や充実感が溢れる活動になっている。さらに生徒主体の活動にしていくことが必要である。

○キャリアパスポートの認識が不十分である結果であった。キャリア教育＝進学指導という、生徒・保護者の認識を変えていく取組が必要である。

<改善策>

□学校行事や生徒会活動では生徒に委ねる部分をはっきりとさせ、生徒主体の行事をさらに促進していく。

□キャリアパスポートを全学年で共通化し、三者面談で保護者と生徒が見る機会を作り、面談の話題として取り上げる取組を実践する。

3 多様な個性が生かされる教育の推進

<考察等>

○丁寧な指導に関する生徒アンケート結果の肯定的回答が 97%であった。生徒理解会議や毎週の校内員会で生徒情報を共有・検討・実践してきた成果である。また、本校は特別支援教室の拠点校として、巡回指導教員からの専門的な知見を得て指導に生かすことができた。

<改善策>

□校内委員会で対象とする支援生徒を明確にすることを推進し、教室環境の整備、授業内での配慮を校内委員会として発信していく。

□別室登校を含めた不登校生徒の対応を不登校巡回教員と連携を図り強化していく。

4 教育環境の整備・充実と安全・安心の確保

<考察等>

○委託業者による学校用務の確実な実施で、学校環境が維持できている。

<改善策>

□事故の未然防止は環境整備が重要であるため、施設安全点検を確実に実施し、教育委員会と連携して修繕・修理にあたっていく。